

発行 全港湾建設支部西成分会
連絡先 大阪市港区築港一丁目
TEL (06) 572-2105



西成分会の闘い

全港湾関西地方本部建設支部

はじめに

もくじ

はじめに / 1
あいさつ・地方執行委員長 / 2
〃 建設支部支部長代行 / 3
(一)釜ヶ崎とは… / 4
労働者の労働と生活
政治の貧困とむきだしの暴力支配
(二)労働者のたたかい / 18
労働組合の結成
たたかいの記録 (72年～75年)
㊶メーデー
㊶現場でのたたかい
㊶国・暴力職安とのたたかい
㊶大阪府・大阪市とのたたかい
㊶大手建設独占資本とのたたかい
㊶ドヤ業者とのたたかい
(三)警察・権力とのたたかい / 48
(四)たたかいの輪はひろがる / 51
(五)西成分会の日常活動と課題 / 58
(六)資料 / 62

「釜ヶ崎を解放しよう！」を合言葉に組合が結成され7年をむかえます。

この間に、二つのパンフレット「釜ヶ崎に小・中学校を建てろ！」「怒りを組織せよ！！」を発行して闘いの記録としてきました。

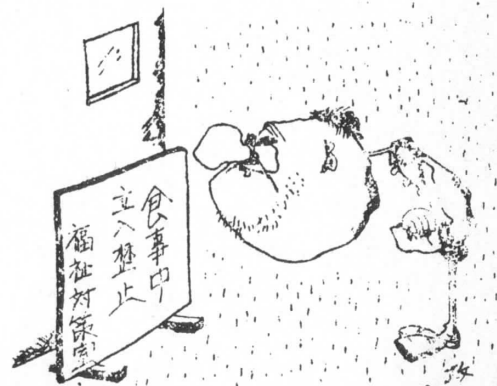
その後の釜ヶ崎労働者の闘いを、続けて記録し、仲間の闘いの武器に、そして他の地域の労働者の釜ヶ崎に対する理解に役だてばと思い、三番目のパンフレットとして、「怒りの炎を燃やせ」を発行します。

内容は72年以降の闘いの記録ですが、組合が毎朝、日常活動として出している機関紙『大阪城』をまとめることとなりました。

どんなに小さな労働者の要求でも、釜ヶ崎では根本問題につきあたります。暴力手配師、差別、中間搾取、国営暴力団の弾圧…。

このことが『3日もたてば、組合はつぶれる』と、いわれながら、一つ一つ地道に、労働者の要求をとりあげ闘いながら成長し、建設大手独占との50日におよぶ闘争を闘い抜くことができた理由だと思えます。

われわれはまだまだ弱く、小さな勢力ですが、釜ヶ崎労働者の解放を最後までやりとげるため闘い続けます。協力と批判をおねがいします。



★雨降れば食わずにねようか釜ヶ崎

この苦しみの重さは はかりしれぬ
だが 知るだろう あとにくる人びとは
幸せのなかに この苦しみの重さを
あす 甘い木の実を手にするためには
きょう どんなに多くの血と骨とを
こやしとせねばならぬことか
チエ・ラン・ビエン(ベトナムの詩人)



釜ヶ崎労働者は着実に前進している 全港湾の旗を高く掲げて闘おう！

地方執行委員長 山本 敬一

関西地方本部が全港湾の組合組織の中で建設支部という建設労働者の支部組織を創設し、釜ヶ崎に闘う労働者の皆として西成分会を結成したことは、大変異色であり、常備労働者をもって組合を結成すると言う既往の労働組合常識から言えば極めて勇気のいることであつた。然も、その決断は私の決意による処が多かつた。今では、あたり前のこととはなっているが、当時としては非常な勇断がいったのである。何度も何度も弾圧と迫害をうけてきたし、釜ヶ崎労働者群が果して、革命の一翼を荷いする団体となりうるだろうかとかさへ心配した時期があつた。然し、遅々として進む中にも、この分会は、全港湾の旗の下に、組織的規律を守りつつ分会指導部の献身的な大衆服務の精神で敵権力に反撃しながら闘ってきた。労働者として極限の生活と権利の弾圧に反抗する中で、全港湾と言う現場労働組合の団結と力の強さを身をもって感じとつたからである。常備労働者の中には、労働組合として不毛の地域、永久未解放の労働者ではないかと疑つた。「ぜに、銭」の問題だと思ふなら、又そのように指導されてきたら、おそらく釜ヶ崎労働者は解放の曙光をみ出し得なかつただろう。「釜の労働者の歴史的使命を変革することだ」と言う意欲に、燃えたぎつたとき、歴史の新しい変革が生れた。西成分会の闘いの中に、励まされ、釜ヶ崎の仲間達の解放運動が着実に

に育ち、発展した。全港湾の旗が俺達の解放の旗だと自覚し始めた。あれから闘いの数年。
上組東庄の仲間達の闘いが全港湾傘下の他の二支部（常備）の連中と団結して闘うことを教えた。三〇億円の金と日本一強猛だと言われた暴力組織を投入してさえ全港湾を遂につぶすことが出来ず上組は全港湾関西地方本部に謝罪することとなつた。みる／＼これが港湾労働者の団結の力だ。これが俺達、差別されてきた釜の労働者の力だ。三井独占大資本も遂に全港湾の旗の下に腰を屈し、西成の労働者を見直したのだ。米ソの世界支配—覇権主義が全世界の人民から総反撃をうけているとき、釜ヶ崎の仲間達が自らの力にめざめ、人間として、労働者として、解放を要求して闘わねばならぬ。諸君のまわりには全港湾の闘う旗がとりまいてる。自らをいやしめる者は、必ず人間として墮落する。敵の攻撃は、弾圧は、これからもつづくだろう。「釜」で人間性を、労働者の根性を買いあさる奴は今後もあとを断たぬだろう。諸君は信じてよい。素朴な労働者の組合—全港湾は決して釜ヶ崎の仲間達を裏ぎることはないだろう。何故なら諸君を裏ぎることは、自らの団結をいやしむことになるからだ。分会は一步一步たゆまなく前進している。三角公園の片すみから釜ヶ崎解放の真赤な太陽がのぼろうとしているではないか。

ベトナム人民の道は

釜ヶ崎労働者の進むべき道である

建設支部支部長代行 尾崎勝次

「怒りを組織せよ」これは釜ヶ崎日雇労働者の組合、全港湾西成分会を結成した時からの組織化のスローガンでした。一九六九年五月二三日西成市民館で建設支部と同時に結成された西成分会には、日本資本主義の重層搾取制度の中で最底辺労働者が「酒によるウサばらし」と「あきらめ」を、自分自身の力で乗り越え、独占資本にせまっていくな闘いの開始でした。当時治安当局や要求を突きつけられた行政は「三日もすれば、いや三週間もすれば組合はつぶれるにきまつている」と考えていました。しかし一九七〇年代の釜ヶ崎労働者は一九三〇年代の人民ではありません。

一九六一年以来の引きつづく暴動の中で、蓄積された労働者の「怒り」と西成分会の連日のピラくばり等の日常活動は、治安当局や行政の願望を打ちやぶりました。しかし彼らは、差別分断攻撃によって、組合をつぶそうと数度にわたって攻撃をかけてきました。これらの攻撃は労働者の闘いを弱めるどころか、西成分会に結集して、闘う事の必要性を明らかにする反面教師になりました。

釜ヶ崎労働者がおかれていた無権利の現実、全く資本主義そのものであり、世界中で最も残忍な日本資本主義の労働者人民に対する姿が完全に暴露されつくしています。今日の資本主義世界の恐慌は回避する道を知りません。それはベトナム、カンボジア、ラオスの人民が、武器をも

って立ち上りアメリカ帝国主義をうちやぶつたように、今まで植民地であり、帝国主義の略奪の限りをうけさげすまれつづけてきたアジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国人民が、資本主義を打ちたおす為に闘い抜いているからであります。これは歴史の流れであり、何人もこれをばむことはできません。くらべることはできないが、アジア、アフリカ、ラテンアメリカ諸国人民がかつてそうであつたように釜ヶ崎の労働者は、日本資本主義からしぼりとられつづけて来たが、ベトナム人民の道は、釜ヶ崎労働者の進むべき道であることはあまりにも明確であります。団結をかため勝利にむかつて前進しよう！

健康を守り、「腹が減つては戦いが出来ん！」
もう二、三日もすれば、長いじめつとした梅雨が始まる。と同時に、我々のいくさも本格的になる。越梅雨闘争は、まず「ドヤ調査」から始まつた。そして……越梅雨の次は「ソーメン代獲得」がある。梅雨から夏にかけて、体をはつて闘わねばならぬ時。逆に一番体をこわしやうい時期だ。炭酸の多い飲料（コーラ、ビール、サイダー等）や、脂肪の多い、こつてりとした食物（白身のさかな、肉の白身など）など消化の悪いものや、コーヒーなど、刺激の強いものは避け、また、なるべく新鮮なもの（とくに生ものは）をとるようにしよう。食物には、充分注意しよう！
わしらは、体が資本なんや！
（大阪城元寇年六月六日二七号より）

労働者の街——釜ヶ崎

(一)釜ヶ崎とは……



釜ヶ崎に、日本全国から労働者が集まってくる。日本の資本主義という経済のしくみが、安く、いつでも首の切れる労働者を必要とする。

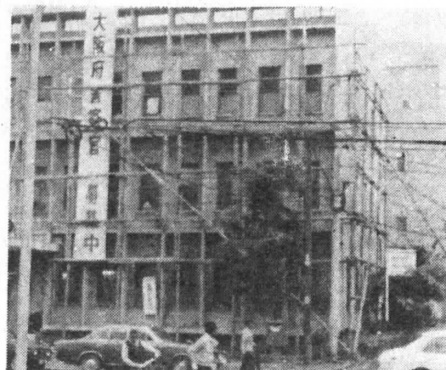
だから、全国の大都市には、必ず釜ヶ崎と同じ、労働者のあふれる街がある。労働者が集まってきた仕事があるとはかぎらない。そして、『失業』が、この街の一番の特質である。資本主義の病が、労働者の病に転化される。極度の生活破壊が、労働者を苦しめる。1km四方に5万以上の人間がおり半数が日雇労働者である。

重い支配の鎖につながれた街——釜ヶ崎

釜ヶ崎の歴史は、江戸時代の名護町の貧民街を明治の「内国勸業博覧会」の時点で、暴力的に国鉄環状線の外（市内に貧乏人のおるとはケシカラシと）に追放したことに始まる。

以後、資本主義の発展とともに労働者は増え、

反抗が強まるにつれ、反抗を鎮圧し、資本の鎖にしばりつけるために国家権力が整備されてきた。「文句を言うな!! いつまでも奴隷でいろ」と警棒が労働者の頭をカチ割らない日がない。



釜の労働者を弾圧する西成署（日本一の警察署）釜ヶ崎の地域の中心点にある。みなは、ここを「西成代官所」と呼んでいる。



武装制圧される釜ヶ崎S.42
治安第1の体勢

解放を求める街 ——釜ヶ崎



昭和36年の『大暴動』は、釜ヶ崎の名前を全国の労働者に響かせ、労働者の闘い・抵抗の代名詞とさえなった。資本家ども、支配階級は、必死になって、労働者を反抗することない奴隷へおしこめるため、徹底した弾圧をおこなう一方、この釜ヶ崎という、ことばを愛隣という言葉におきかえ、消し去ろうとした。しかし抑圧され、搾取に苦しむ労働者から、釜ヶ崎という名を消し去ることはできない。

↑昭和42年「暴動」

メシ屋の代金が60円不足していたことで、店員が、労働者をドツキまわしたのを見た労働者達が、この店を糾弾したことはじまる。警察権力は大々的に、労働者を鎮圧する体制をとり、それに抗議する労働者の闘いが数日、打ち続いた。



にらみ合い
阪堺線南霞町駅前で群衆と対立する機動隊 3日午後10時30分写す



労働者の大衆的な闘いにのしかかる国家権力

一般地区であれば、60円のメシ代が不足したとしても、『借り』することもできる。だが、釜の現金（日雇）生活は、金がなければ、生きてゆくことが、できないという資本主義の残虐性があからさまにつらぬかれており、また、労働者の怒りも鋭く、反抗の、そして解放の要求も、身近で根本的なものである。

【労働者の労働と生活】

労働

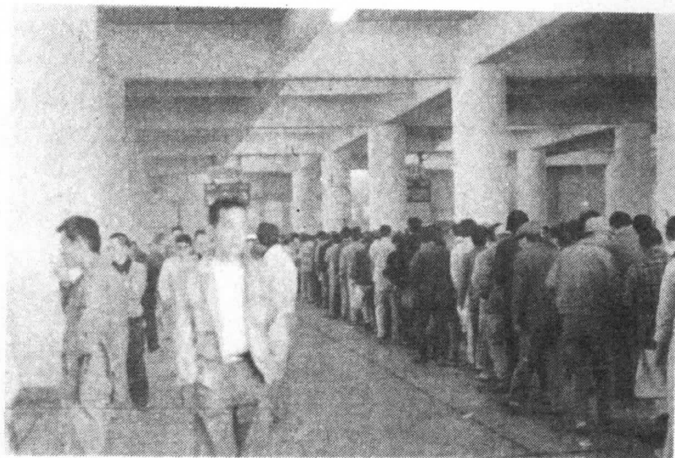
朝四時から仕事をさがす労働者



労働者にとって
一日の仕事にあり
つけるかどうかは
一日生きていられ
るかとは結びつく。
だから労働者は、
日もあけぬ四時頃
から仕事を捜す。
だが確実に仕事
にありつけるとい
う保障はなに一つ
ない。
資本家の横暴は
目に見えない無言
の力で労働者にお
そいかかっている。

あぶれ (失業)

朝早くから仕事を捜し続けても日々雇い（雇用
の保障がないために）多くの仲間が仕事にありつ
けず、失業を強制される。不況になればますます
このことが大きくなる。



一九七〇年に組合の闘いの成果として釜ヶ崎日
雇労働者に失業保険法が適用され、失業保険の給
付をかちとった。だが規定が厳しく、釜ヶ崎の失
業問題を解決するには、ほど遠い。

生活

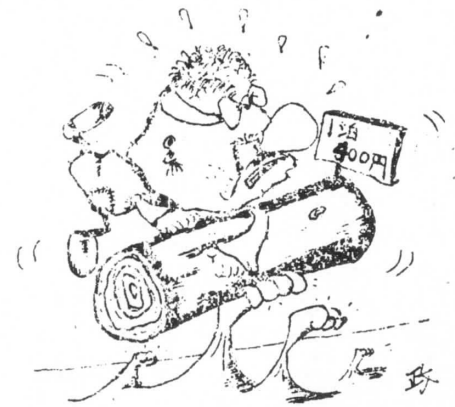
つかれはてたからだに
たかる商店主たち
高級ホテル並みのドヤ代



73年12月、1人の仲間を殺した末広

畳一畳 日払い400円が相場
月で一万二千元、寝るだけで精一杯、「起きて半畳、寝て一畳、全て合せて（壁、天井）四畳半、火が出れば、そのまま棺桶、死んで三万、ケガして一万と言われ、暴利をむさぼり、金がなければ一日として待たず、街頭にほうり出される。
だから青カンといわれる野宿を釜の仲間が強いられる。夏はまだしも、冬場の青カンで仲間が命を落とす……。

行政とドヤ業者の共同殺人が奨励される。



ドヤ

食堂と飲み屋

『安い屋』飯を食べばドヤ代がなくなる。酒を飲めば、飯さえ食えなくなる。わずかな労働者の賃金を容赦なく、すいとおつてゆく商店、食堂、インスタント・ラーメンと、店で一番の目玉商品、決して安くない。



朝日新聞1973, 9, 6
カロリー摂取量

酒屋、悪い酒、安い屋、朝の四時から店をひらき労働者をさそう。地区のタカリ、シノギ（辻強盗）がたむろし、労働者を襲う基地となる。暴動は、この店への攻撃にはじまるといふ。

ひどい栄養不足です…… あいりん地区労働者

国民平均の6〜7割

とくに少ないビタミン



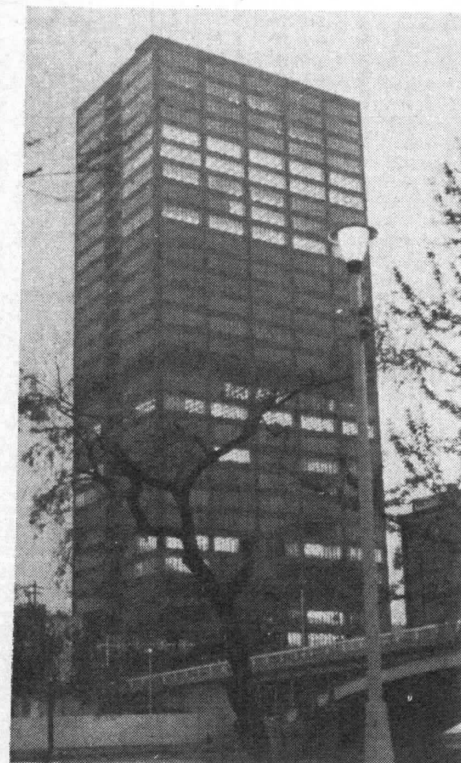
暴力手配師

中間搾取^{ひんはね}は、職安法、労基法によっても禁止される。人身売買をあまりにも露骨にするのは、資本主義の恥を見せつけ、さらけ出してしまい、まづいと上層の資本家達は思ったからだ。

ところが釜ヶ崎では、プロの人買いが、そんなこと、おかまいなく、大手をふるっ

ている。酔った労働者を無理に車に乗せてゆくこともある。だが行政も、警察もなにもしない。「毒をもって、毒を制す」「手配師は、必要悪だ」というのが見解、それもそのはず、手配師はヤミのルートで、上層（独占）の資本に多大の奉仕をしているからだ。

【政治の貧困とむきだしの暴力支配】



大林組本社

無知・偏見に満ちた扱い

タコ部屋
地獄部屋
兵庫伊丹の
清花組、手配師
料として一万五
千円ピンハネ、
子供を産んだ翌日から働
かす。昔の炭坑、女工哀
史以上の冷酷さ

こえふとる大手元請資本

『一将功なりて萬骨枯る』

釜ヶ崎は建設産業共通の最も安上りな飯場です。大手建設業者は直接現場で働く労働者は一人も持つていないと言っても過言ではありません。その下請制度は極めて複雑怪奇で、とうてい他産業に従事する者には理解し難いものがあると思います。大手建設業者の前近代的な雇用労働制度は、下請に至るとヤリッパナシで労災不適用や賃金不払が

続出するため、特に建設業だけは労災と賃金不払は元請が責任を負うように法律で定めねばならなくなり定められました。これは他産業にみられない特異性であると共にその残酷さを物語っている

建設業者のボスは竹中錬一

建設労働者はある時は地上数十米で、ある時は地下にもぐり、命を的に汗とホコリとドロにまみれ極めて重労働に従事しています。高速道路がのび、新幹線が走り、ビルが建ち、工場を作り、港・空港と、現代のハンエイ(?)を下づみで支えて来ました。その労働条件は、「土方殺すにや刃物はいらぬ、雨の三日もふれば良い」と言われる程残酷です。

大手建設業者⇨長者番付、釜労働者⇨生活出来ぬ。釜の労働者に夏期一時金を!! 団結、団結!!

(大阪城一九七七年八月五日函吾方より)

世界の建設業者ベストテン 1963年

業 者 名	受注高
1 鹿 島 建 設	1368億
2 大 成 建 設	1304
3 清 水 建 設	1267
4 エバスコ・サービス	1262
5 竹 中 工 務 店	1216
6 大 林 組	1154
7 モリソンクヌードセ	1116
8 ベクデレ・コーポレーション	1102
9 ビーター・キーウィット・サンズ	1044
10 ジョージ・A・フーラ	964

鹿島出版会編集局編「鹿島建設」

差別・無能・無責任行政糾弾！

現代版2足のわらじ

江戸時代の昔、やくざが十手を領り、暴力と権力とを振りかざして、圧政をひきました。この目には目の支配は、江戸時代の昔話ではありません。お月さんにいこうという20世紀の現代も、釜ヶ崎では行なわれているのです。手配師（法違反、多くは暴力団とつながっている）に金まで出して、



〈決断のにぶい奴〉
知事サン、何してまんのや
どこへとんでいくの？
言わずと知れたパチンコヤヨ

就労正常化指導員Ⅱ大阪府の準職員に大阪府労働部は任命をしているのです。大阪府勤労者福祉協会（会長鎌田副知事）は人夫出し（法違反）に食堂やロッカー室の営業許可を出しているのです。

病気になるっても入れる病院はないが

死んだら立派な総合病院へ

大阪市立大学付属病院は、釜ヶ崎を見降ろす坂の上に立っています。この釜ヶ崎に隣接する市大病院は釜ヶ崎の患者を入院させません。しかし死んだら、行路病死ということで学生の解剖用にかうわけです。

無能・無責任差別行政の大阪府・市が、あいりん対策中期総合5ヶ年計画なるものを考えています。曰く、大阪府が、1特別法の制定、2就労の正常化、3常用化の促進、4労働福祉の推進、大阪府が、1生活の援助、2児童、老人対策、3地域福祉と題目をいっています。しかし何をやるのかさっぱり分らない。この総合計画を公表せよ！

警察―西成代官所

―国営暴力団―

一億三千万で増築



町中に監視カメラ

大阪府警も違法と暴力のモミ消にやつき
弁護士会は西成署の件で特別に委員会を作り慎重に調査して結論が西成警察の越権行為と暴力の事実是有ったとしての警告書、だが部下の違法が府警の命令かどちらにしても都合が悪い。

そこで居直って警告書をつき返したのでしょうか。この事件のcockさんはバンシヤクもせず普段酒を飲む習慣を持っています。この事ははっきりとした事実です。前に西成分会が一滴も酒を飲めない人が泥酔保護されたと書きましたが、この人も同様です。釜ヶ崎に労働者のための法律はない。基本的人権を軽視し違法をくり返し暴力のかぎりをつくし釜ヶ崎労働者を泣かせるのみならず弁護士会の事実に基づく調査を誤認として開き直る西成警察は釜ヶ崎労働者だけでなく日本の国民や日本の法律と正義と道理の敵で有る。

（大阪城一九七三年五月一八日八六三号より）